

2026年3月期第3四半期 決算説明資料

2026年2月5日

第3四半期実績サマリー

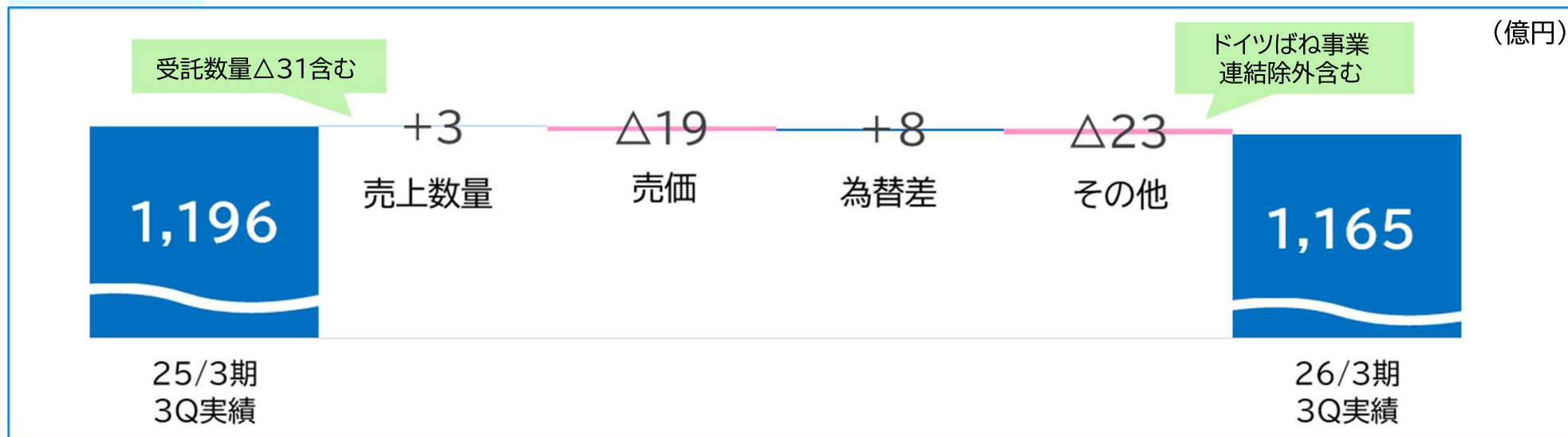
- ◆ 売上高は、戦略事業の精密ばね事業や受注が好調な機器装置事業が伸長した一方、国内鋼材事業における需要減や室蘭コンビナートの高炉トラブルに伴う売上数量減、原材料価格下落に連動した売価低下影響等により、減収。
- ◆ 営業利益は、戦略事業等の収益貢献があったものの、国内鋼材事業における数量減や高炉トラブルによる室蘭コンビナート全体での生産性悪化により、減益。
- ◆ 四半期純利益は、営業外費用の縮小及び前期のドイツばね事業撤退や北米子会社の訴訟関連損失に伴う特別損失の解消等により、前年同期並みとなる。

(億円)

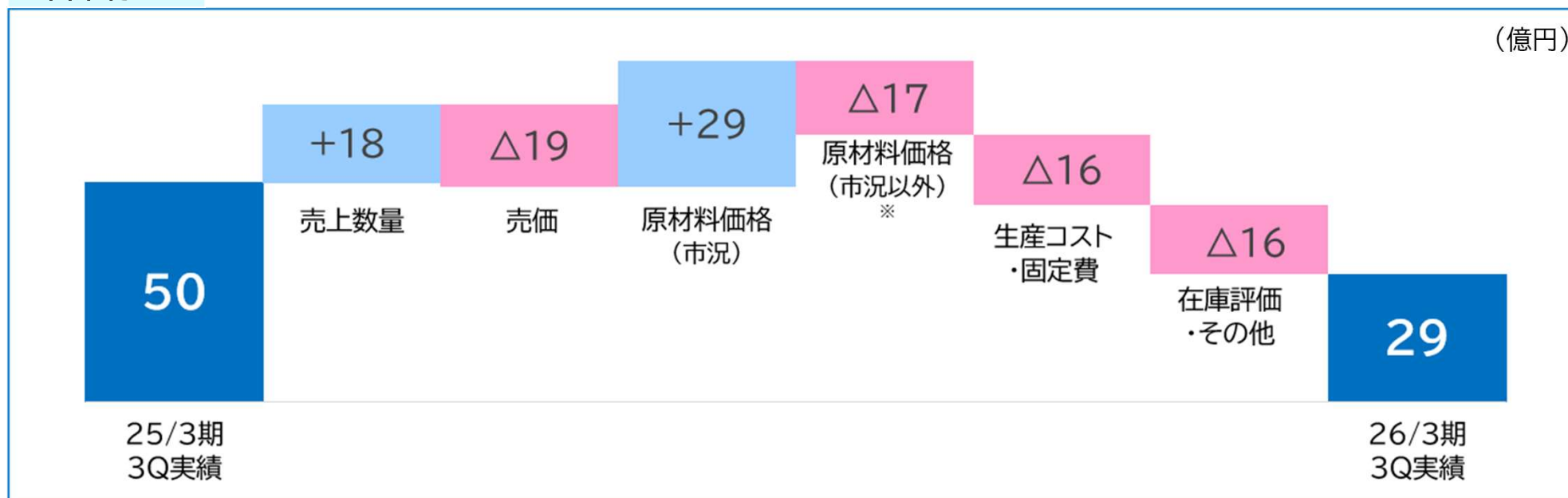
	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	前年同期差
売上高	1,196	1,165	△31
営業利益	50	29	△21
経常利益	41	23	△18
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	10	10	0

売上高・営業利益の変化要因

売上高



営業利益



※日本製鉄株式会社殿と共同で運営する高炉溶銑コストのうち、原材料市況(為替変動分含む)を除いた影響で、室蘭コンビナート全体の操業度や高炉トラブル影響を含む

セグメント別業績実績

- ◆ 国内鋼材事業の損益が大幅に悪化。一方で、ばね・海外鋼材事業は前年同期比で増益となり、素形材・機器装置事業についても堅調に推移。

(億円)

			25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	前年同期差
特鋼	殊鋼材	売上高	616	501	△115
		営業利益	31	△8	△39
ばね		売上高	502	570	68
		営業利益	12	27	15
素形材		売上高	69	70	1
		営業利益	3	4	1
機装	器置	売上高	65	80	15
		営業利益	3	5	2
その他		売上高	28	28	0
		営業利益	1	1	0
連結調整		売上高	△83	△84	△1
		営業利益	0	0	0
合計		売上高	1,196	1,165	△31
		営業利益	50	29	△21

セグメント別業績実績(特殊鋼鋼材・ばね)

特殊鋼鋼材事業

(億円)

	25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年 同期差
売上高	616	501	△115
営業利益	31	△8	△39

国内鋼材販売量(累計)※自社分

25/3 3Q	254千t
26/3 3Q	210千t

◆ 売上高(減収)

- ・【国内】(減収)
 - ✓ 需要減及び室蘭コンビナートの高炉トラブルに伴う売上数量減
 - ✓ 原材料価格の下落に連動した売価低下
- ・【海外(インドネシア)】(増収)
 - ✓ 売価改善による売上増

◆ 営業損失(減益)

- ・【国内】(減益(損失))
 - ✓ 数量減に伴う室蘭コンビナート全体での生産性悪化
 - ✓ 高炉トラブルによる操業度低下
- ・【海外(インドネシア)】(増益)
 - ✓ 売価及びコスト改善

ばね事業

(億円)

	25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年 同期差
売上高	502	570	68
営業利益	12	27	15

◆ 売上高(増収)

- ・精密ばね事業及び国内ばね事業の売上数量増

◆ 営業利益(増益)

- ・精密ばね事業を中心とした売上数量増

セグメント別業績実績(素形材・機器装置)

素形材事業

(億円)

	25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年 同期差
売上高	69	70	1
営業利益	3	4	1

◆ 売上高(前期並み)

- ・特殊合金粉末及び精密鑄造品の売上増
- ・他製品の売上数量減

◆ 営業利益(増益)

- ・精密鑄造品の売価・コスト改善
- ・特殊合金粉末における合金原材料上昇分について、売価転嫁までのタイムラグが発生

機器装置事業

(億円)

	25/3期 3Q	26/3期 3Q	前年 同期差
売上高	65	80	15
営業利益	3	5	2

◆ 売上高(増収)

- ・安全保障やエネルギー分野等の好調な受注を背景とした防護装備品、海外電力機器及び鍛圧機械等の売上増

◆ 営業利益(増益)

- ・売上増及び各種製品の生産コスト改善

営業外損益・特別損益影響

- ◆ 営業外損益は、借入金圧縮に伴う支払利息の減少により、改善。
- ◆ 特別損益は、前期のドイツばね事業撤退及び北米子会社の訴訟関連損失に伴う特別損失の解消等により、大幅改善。

為替レート				(億円)		
24/3末	151円	25/3末	150円	25/3期 3Q実績	26/3期 3Q実績	前年同期差
24/12末	158円	25/12末	157円			
営業利益				50	29	△21
営業外損益				△9	△6	3
為替差損益				1	1	0
支払利息				△11	△9	2
経常利益				41	23	△18
特別損益				△16	1	17
保険金収入				2	—	△2
投資有価証券売却益				—	1	1
事業整理損失 ※				△11	0	11
訴訟関連損失 ※				△7	—	7
税金等調整前中間純利益				25	24	△1
税金費用等				△13	△10	3
非支配株主に帰属する四半期純利益				△2	△4	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益				10	10	0

通期業績予想サマリー

- ◆ 通期業績予想は、2Q決算時(2025年11月6日)に公表した予想を据え置き。
- ◆ 一方で、前回予想公表後(12月1日)に発生した室蘭コンビナートの高炉付帯設備の火災事故により、国内鋼材事業において一定程度の影響を見込む。
- ◆ 本件による業績予想への影響は現在精査中。重大な影響が見込まれる場合には、速やかに開示を行う。
- ◆ なお当期の配当は、安定配当の観点等から設定している下限値(80円/株)を維持し、変更しない方針。

(億円)

	25/3期 実績	26/3期予想			前期差
		上期	下期	通期	
売 上 高	1,596	799	791	1,590	△6
営 業 利 益	66	21	23	44	△22
経 常 利 益	49	14	16	30	△19
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	24	7	18	25	1
配 当 (円)	64.0	40.0	40.0	80.0	16.0

12月に発生した室蘭コンビナートの高炉火災事故について

【事故の概要】

- ◆ 当社は、日本製鉄(株)北日本製鉄所室蘭地区内において、同社と共同で**北海製鉄(株)**の高炉を運営

【北海製鉄(株)について】

- ・ 出資比率 日本製鉄(株):80%、当社:20%（操業は日本製鉄(株)に委託）
- ・ 当社の国内鋼材事業は、同社から供給される高炉溶銑を主原料に特殊鋼を生産

- ◆ 昨年12月1日未明、北海製鉄(株)高炉の付帯設備である熱風炉で破損・火災事故が発生し、高炉の操業を停止。

高炉溶銑の供給停止により、当社国内鋼材事業の生産量に一定の影響が発生。

【現在の状況と今後の見通し】

- ◆ 当社グループでは、現在も高炉溶銑の供給停止影響を受けているが、室蘭地域および各ネットワークでの鉄源・素材供給能力等を活用した原料の代替調達により、特殊鋼の生産とお客様への供給を継続。
- ◆ 北海製鉄(株)の高炉の復旧状況については、操業主体である日本製鉄(株)とともに、原因の究明と復旧作業、並びにこれら追加費用の取扱いについて整理を進めながら、本年3月末の操業再開を目指している。
- ◆ ばね事業をはじめ国内鋼材事業以外の事業については概ね計画通り、又は計画を上回る水準の業績で推移しており、国内鋼材における当該要因が解消する来期は、損益の改善を想定している。



＜将来見通しに関する注意事項＞

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。